

提案事業プレゼンテーション Cグループ		
時間	提案事業	委員
①10:20～10:40	みんなで子育て応援事業（子育て環境整備事業） 《坂祝町》	岸田眞代委員 加藤慎康委員
②10:40～11:00	名古屋市民をみのかも定住自立圏域へ招くツアー事業 《白川町》	
③11:00～11:20	生物多様性地域連携促進事業 《美濃加茂市》	
④11:20～11:40	みのかも魅力発信！名古屋交流拠点事業 《美濃加茂市》	
⑤11:40～12:00	でか金を媒体にした地域づくり事業 《七宗町》	(事務局) 安田智洋

※主な意見と質疑応答（発言は要約しています）

<みんなで子育て応援事業（子育て環境整備事業） 坂祝町>

坂祝町

自然を活かすなど、坂祝町民に喜んでいただける施設にしたいです。いろんな要素を取り入れた大きい子育て支援施設を建設しますので、美濃加茂市民に喜んでいただける施設にしたいと考えています。

現在は、美濃加茂市との連携を優先に考えてきましたが、今後は、圏域内の他町村との連携も考えていきたいです。

加藤慎康委員

坂祝の子どもには、どうなってほしいというイメージがありますか？ 母親にとって、どういう位置付けの施設にするというイメージは、ありますか？

坂祝町

町内に小学校1校、中学校1校という環境は、坂祝町の良さでもありますが、高校進学の際のプレッシャーに感じて退学する子もいます。その意味で、自立できる子、共生できる子をめざしていきたいと考えています。

親だけではなく、いろんな人が関わって子どもが育つ環境づくりをし、その中心となる拠点づくりを今回の提案で実現したいと思います。

母親には、どちらかという肯定的なサポートをしているので、こうした拠点を通じて、信頼関係ができれば、母親自身が考えることができるような、厳しいことが言える関係づくりが出来ると考えています。母親からは、応援サポートだけでなく、時には厳しい指導もほしいとの声もあります。

行政が、指導・相談するだけでなく、厳しい意見も含めて、いろんな人からアドバイスがもらえるようなアットホームな拠点にしていきたいです。

岸田眞代委員

人材が不足している部分をヒアリングしていくとありますが、前期高齢者を活用していくことは、明

確に意識していますか？

坂祝町

福祉担当としては、前期高齢者は、介護予防に役立つ意味も含めて、パワーもあり、子育てに関する熱意も感じられる方がいらっしゃいます。そういう方たちに今の子育てを知っていただきたいと思います。若い方の、短時間就労の受け皿作りにもなるとよいと考えています。

岸田眞代委員

子育てのグループは、いろいろあり、専門分野も多岐にわたります。多様性を考えながら、進めて行かれると良いと思います。

坂祝町

子育てカフェを検討できる業者に見積もり依頼をしています。人材育成は、ワークショップ（ヒアリング）を7回程度予定して、予算を算定しています。しかし、美濃加茂市と協議する中で、委託先を再検討する必要性も感じています。ゼロから、美濃加茂市と協議して業者選定を、進めていきたいです。

岸田眞代委員

計画づくりであるワークショップを、どうやって運営するかを考えることが、かなり重要です。

平成29年度に建設し、30年度からオープンの手配ですね。30年以降の予算は、施設を運営する予算ですね。運営方法の、指定管理や委託などを、どのように考えていますか？

坂祝町

指定管理もしくは委託の形で、新しい公共の視点で進めたいと考えています。療育施設のイメージも盛り込んでいるので、坂祝町としてさらに検討を要する部分があります。これまで、行政ではできなかった発想を取り入れた施設にしたいです。

<名古屋市民をみのかも定住自立圏へ招くツアー事業 白川町>

加藤慎康委員

実際に移住を考えている若い世代は、きっかけができるともっと行きたくなる傾向があります。その人たちに、もっと関わってもらいたい仕掛けをどうするのかを考えると良いと思います。例えば、既に白川町に移住して、定住圏として暮らしている同じターゲットの若い世代の方がいらっしゃれば、その方達の意見を聞くことも大切だと思います。

岸田委員

基本的にそうそう簡単にいかないという前提に立って、繰り返し取り組まなければいけないと思います。対象を若い方にするにしても、一般的に募集するばかりでなく、具体的にどこで、誰に募集することを考えるべきです。定住者の増加につなげるということ意識するならば、若い方以外にも、定年退職後の暮らし方を考える世代をターゲットにしても良いと思います。

また、一般論で募集するというよりは、企業の人たちに向けて募集をするなど、今までにやってきた

方法とは違う形で募集を考え、ターゲットを絞っていく必要があります。

ツアーに1・2回参加するといいいことまでは、ある程度成功すると思いますが、長期に事業を実施し、定住者を増やすということを意識すると、さらに知恵を絞る必要があります。その意味で、旅先案内人の位置づけが、定住につながるのでしょうか。単に「旅先」で終わることになってしまうのではないかと気がかりです。

白川町

旅先案内人は、看板のようなものであると考えています。観光ボランティアの方の発する言葉によって、地域のイメージが変わってくると思うので、養成が重要になると考えています。

岸田真代委員

旅先案内人の位置づけと養成をしっかりと組み立てることが重要です。このことをもっと工夫することが大切だと思います。

加藤慎康委員

過去にこうしたツアーを企画したことがあります。年間3回、同じ所に通うとか、そこのお祭りを一緒に作るとか、過去のツアーの参加者がツアーのガイドを行うなどの仕掛けを行ったことがあります。結果的に、一番良かったのは、ターゲットにしていた20代30代ではなく、定年前の世代が定住につながったことです。

そうした、予定よりも少し年齢が高い方の移住者がキーマンになって、さらに違う若い世代のつながりができて、目的に近づいていくということがあったので、ターゲットの周辺領域のことも考えていくことが重要であると思います。定住者になった人が前に出て、活躍できる地域になると良いと思います。

岸田真代委員

既に定住者になっている人の意見を徹底的に分析することができれば、ターゲットの絞り込み方や、ツアーの中身が良いものになると思います。あれもこれもツアーにあることが、定住につながるかは、言えません。そこをもっと考えて頂きたいです。

加藤慎康委員

プログラムを打ち続けて、予算を投下していくのか、あるいは、NPOを育てて、自立していくように進める仕掛けがあると良いと思います。NPOの職員に外から人を採用するなどの工夫があると良いと思います。

岸田真代委員

観光協会自身が観光を行うのは当たり前ですが、つながれる先（NPOなど）をたくさん持っていることが強みになります。NPOは体験と取り入れるのが上手いので、体験をするということが定住につながっていくと思います。

加藤慎康委員

中山間地に定住者となった方を名古屋に招いて、ワークショップみたいなものを開いて、中山間地に

住みたい潜在的な人たちを招くことができると良いと思います。

<生物多様性地域連携事業 美濃加茂市>

岸田眞代委員

調査によって生物多様性の地域の特性が見えてくれば、エコツアーに限らず注目されるだろうと思います。「e-kamon 環境フェア」との関係において、調査事業の方が先ではないのですか？

美濃加茂市

生物多様性への意識は、国民的に低いというのが実情で、環境省も、ぜひ生物多様性の意識啓発を実施してほしいと要請があります。環境省中部事業所も協力して頂けるということから、同時に進めることにしています。今も、希少種の状況は刻々と変化しているため、同時進行で啓発を進めていきたいと考えています。

加藤慎康委員

実施主体となる民間団体の確立が、課題となると書いてありますが、木曾川流域のどこかで手を組んで実施しようとしている団体はありますか？

美濃加茂市

NPOのEPO中部に声かけをしておりますので、できることがあれば、協力するという回答を頂いています。中部環境事業所を通じて、東山動植物園や河川環境楽園などでも、情報発信ができると考えています。圏域外から、いろんな人に来て頂くことも必要ですので、将来的には、環境ツアーも考えていきたいと思っています。

加藤慎康委員

生態系ということは、結局、皆さんの暮らしとどうつながっているかを考えることになるので、農家の方が、生態系を守る為にこんな育て方をしているなど、細かい事柄を知ることも大切な事だと思います。専門家の調査以外にも、その周辺の事を伝えると、魅力を感じて来訪者が増えると思います。

地域の魅力は、地域のことを再認識することだと思います。再認識したことを発信することが大切だと思います。

岸田眞代委員

自然の中で、この地域は、特に何がアピールできるのか見えてこないといけません。そのことがないと、生物多様性のイベントを行っても、意気が上がらないように思います。

美濃加茂市

生物多様性の具体的な実感がわくような、環境フェアにしたいと考えています。

私達は、種が失われてから、その大切さに気付きます。しかし、種が失われてからでは、遅いのです。そのことを広く圏域内外の人に、いかに知ってもらおうかが大事であると考えています。その為にも、調査と同時に進めて行きたいです。

加藤慎康委員

e-kamon 環境フェアが、川の上流の人と下流の人を結ぶ、良い機会になると良いと思います。交流が進んで、ツーリズムのきっかけになると良いですね。

<みのかも魅力発信！名古屋交流拠点事業 美濃加茂市>

岸田真代委員

イベントが、訪れてみたい、住んでみたいということとつながるように、どうやって橋をかけていくのですか？

美濃加茂市

イベントを窓口として、圏域には、深い楽しみがあることをPRして、圏域を訪れるきっかけにしたいです。この圏域は、場所として、都市圏から比較的近いことが、認知されていません。認知を広げるために、イベントを行いたいと考えています。場所・歴史・素材の知られていないことを前提に、PRしたいと思います。

岸田真代委員

人・モノ・歴史などいろんなことが要素となるので、それは素材と言うより、地域資源だと思います。地域資源全体の中で、いろんなことをつないで考えるということが、掘り起こすということだと思います。

美濃加茂市

モノを中心に考えていましたが、歴史や人（地域の人）も資源として、PRすることも考えて行きたいです。民間の人を媒介にして、地域を振り返る必要があると思います。

この事業は、知ってもらって、来てもらうことまでが、主な目的です。来てもらう人が増えれば、その中から、定住する人が増えると思いますので、定住化につながる分母を増やす事業として考えています。

加藤慎康委員

名古屋の側の情報発信と、圏域のゲートウェイになる美濃加茂市での発信の両方が、必要であると考えています。いかにこのルート（R41）を通っていただくかが、大事になります。

車で名古屋から美濃加茂市に来てもらって、そこから先は、どこへ行こうかと考えていただくような、流れを作れるようになると良いと思います。

テレビ塔は、活用していただけると良いと考えています。初年度から、イベントの企画が大事になってくると思います。

美濃加茂市

ターゲットをどこに絞って行くかを戦略的に考えていく必要があります。体験となると家族づれや若い方がターゲットになってくると思いますので、効果的なPRを考えたいです。

岸田眞代委員

そこに住みたくなる魅力をもう少し深めると良いと思います。それは、モノだけでは無く、自然だけでも無いと思います。

加藤慎康委員

実際に地域のお祭りを、都会の人にやってもらうことも良い取り組みだと思います。都会で経験できないことを知ってもらったり、伝えることが大事です。

岸田眞代委員

都会の人は、そこでどんな暮らしがあるのか、どんな職業があるのか、都会に無い物を知りたいと思っています。そこには、「人」がクローズアップされてくると思います。

<でか金を媒体にした地域づくり事業 七宗町>

七宗町

七宗町は、でか金を生産して利益を得るのではなく、人々に生きがいを与えて盛り上がろうと考えています。七宗町から圏域に対して、クラブとして、愛好者を広げていきたいと考えています。

また、クラブ員の主要メンバーを増やしたいわけではなく、飼ってもらえる人を増やしたいと思います。2、3年後に品評会を開催し、具体的な目標はありませんが、一人でも多く飼って頂きたいです。

加藤慎康委員

例えば、ひとつの商店街通りをモデル地区にして、でか金を飼ってもらうなどの取組みを考えたらどうでしょうか。

岸田眞代委員

地域づくりをすすめるならば、もっと具体的にすべきだと思います。数値目標があった方が良いと思います。

加藤慎康委員

例えば、でか金による「D-1」コンテストをやるような勢いがないと、事業がしぼんでしまうように思います。それではもったいない感じがするので、もっと、旗印を明確に掲げるべきです。

岸田眞代委員

七宗町を挙げて、「でか金を育てる町になって行こう！」などのイメージが必要だと思います。

加藤慎康委員

美濃加茂市や都会で、里親制度のように飼育者を募集して、2年後に品評会を行うなどの仕掛けがいろいろあります。このような流れを作るのが大切です。SNSを使って、飼育日記を公開してもらうなどの、交流が出来ると良いと思います。

でか金を浸透させる場を作った上で、飼育者が写真を投稿するなど、顔の見える交流をしないと盛り上がりがないと思います。

七宗町

ホームページを作り、書き込みができるようにしたいと思っています。

岸田真代委員

七宗町に住む、飼育の達人の家に民泊できると盛り上がると思います。そのため、地域に受け入れの体制を作るのが大切だと思います。

先進地である熊本県長洲町と、連携が上手くできると良いと思います。全国大会を行うなどを考えても良いと思います。

(Cグループ終了)